

SRI アナリストは、企業の従業員施策について取材をする際、施策への理解もさることながら、その企業の社員が生き生きと働くことができるその背景、いわば企業風土を少しでも理解することが重要です。そうした取材で対話を重ねる中で、取材相手の方が、その会社で働くことのどういうところが好きで、いかに誇りに思っているか、その人の仕事への情熱に直接触れて、心を揺さぶられる瞬間があり、それがこの SRI アナリストの仕事の醍醐味のひとつです。

最近、ある企業の工場訪問で、研究職の女性社員にインタビューする機会がありました。その企業の IR 担当者に仕事と生活の両立支援策について取材をした際、「よかったら今度、現場で活躍する女性社員にインタビューをしてみませんか？」と言われたことがきっかけです。当時、その企業にはまだ課長級以上の女性管理職がいない状況でしたが、今回、将来が期待されるその若手女性社員にお会いして話を聞くと、同じ部署には育児休業を経て復職しているロールモデルの女性の先輩がいるので、自分自身もいずれライフステージが変わったとしても、不安はないとのことでした。インタビューを通して、周囲の雰囲気明るくしてくれるその女性社員の、仕事への情熱と、周りの人との厚い信頼関係、そして、今後さらなる活躍が期待される、同社の女性社員全体の現状が伝わってきました。

組織で働く人にとって、他部署を巻き込んだ仕事は、大なり小なりハードルが高いことでしょう。そのハードルを超える仕組みや風土が、どこまでできているかが、その企業の競争力につながると言っても過言ではありません。部署をまたいだ取材を実現してくださった IR 担当者や、この提案を引き受けてくれた女性社員、インタビューに快く送り出してくれた女性社員の周りの方からも、この会社の強みの一端をかいま見ることができました。

環境、社会、ガバナンス（ESG）に関して、企業にとって制度の導入そのものも大変ですが、しかし、制度を導入することと、その企業の一人ひとりにまで、制度の根底に流れる企業の戦略や考え方が浸透し、本当の意味で活用されるまでの間には時間差があります。働いている人たちで企業が成り立っている以上、その浸透は極めて重要なことです。皆で暗黙のうちに培ってきた自社のカルチャーを ESG の観点から掘り下げ、抱いている理想と、そこに足りない現実を見つめ、自社の強みと課題をその企業自身の言葉で語り、発信することが、何よりも大事であると考えさせられた訪問でした。